豪商の館「機那サフラン酒本舗」の保全の為の地域活性化活動

特定非営利活動法人 醸造の町摂田屋町おこしの会［新潟県長岡市］

団体設立の経緯

地域に生活する者にとっては当たり前の空間なのでしょうが、外から来た人にとって摂田屋はとても魅力的です。平成15（2003）年、当時のJR長岡駅駅長の助言もあり、地域の魅力的な資源を有効活用してまちおこしをしようという機運が盛り上ってきました。ところが平成16（2004）年、新潟県中越地震が起き、この地域にも大きな被害をもたらしました。中でも蔵造りの建物は再生が困難で、費用もかさむため存亡の危機を迎えました。このままではせっかくの景観が無くなってしまう。これではいけないと醸造業者を中心にして、地域や摂田屋を愛する市内の有志が集まり、歴史的建造物や景観を有効活用しながら地域を活性化させようと、2005年にNPO法人の設立に至りました。

地域概要

長岡市南部に位置する摂田屋地区は、江戸時代から酒・味噌・醤油などの醸造業が集積した醸造の町であり、脇往還の一つ旧三国街道が町のほぼ中央を通っています。長岡市の市街地の多くは太平洋戦争で焼失しましたが、摂田屋地区は危うく難を逃れ、明治・大正時代の面影を残す景観があります。古くから交通の要衝としても栄え、戦国時代には城が築かれ、酒造りもこの頃から始まったとされています。戊辰戦争の時に長岡藩の本陣がおかれた光福寺もここにあります。明治から昭和にかけ薬酒で一世を風靡した機那サフラン酒本舗が、鏝絵の蔵に代表される異彩を放つ個性的な建物を建造しました。現在、地区では7件の建造物が有形登録文化財に指定されており、歴史的建造物と景観で散策を楽しむ人が増加しています。

設立年月 ・・・ 平成 17 年 8 月
法人化した年月 ・・・ 平成 18 年 1 月
メンバー数 ・・・ 正会員 30 人
代表者名 ・・・ 中村　隆（なかむら・たかし）
連絡先 ・・・ 〒940-1105　新潟県長岡市摂田屋 4 丁目 8 番 16 号
☎ 0258-35-3000　settaya@yosinogawa.co.jp
http://kina-saffron.com/
https://www.facebook.com/#!/nnn.settaya
団体のミッション ・・・ 私達は、 個性豊かで創造的な活力のある地域社会づくりに寄与することを目的とし、
長岡市摂田屋地域を中心とした構成員相互の協力と資源の相互活用を通じて、
町づくりや地域おこしの事業を行っています。

活動に至った理由や背景

地域の中核的建物「機那サフラン酒本舗」は主屋・離れ座敷・庭園が建設から100年以上が経過し荒廃が進んでいます。保存のために残された時間は多くありません。しかし修復するには巨額の費用がかかり、待っているだけでは貴重な文化財は無くなってしまいます。私達は未だあまり知られてはいない、とても魅力的な稀代の文化財を守るためにできること、草取りから始めました。朽ちる速度を可能な限り遅らせる処置を行い、できるだけ可視範囲を広げ、大勢の方からご覧いただけたら、おのずと保存すべきものか否かを判断していただけると思っています。

活動の内容と成果

市民の財産として組織的に機那サフラン酒本舗を保存・活用していくために、2013年に「機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会」を結成しました。会長からの指示はできるだけ多く会合を行うこと。月1回が目標でしたが現在隔月に1回のペースで会議を行なっています。目的を遂げるためには多くの困難が存在しますが、皆が集まり情報を持ち寄り、意見を交わします。活動をどのように進めるか、行政との連携は、資金調達は、将来の姿は、いろんなことが議論され、それぞれが本舗の魅力を語り、交流を深めています。

本舗の保存活動のスタートは2009年のボランティアの草取り。近所の造園屋の社長さんの発案にNPOが呼応し、地元住民に呼び掛けて長岡造形大学の学生さんと一緒に始めたのです。午前中の作業で汗を流した後はお汁とお酒、おにぎりで交流会というパターンは今も変わりません。雑草が生い茂り木々には蔦が絡まりジャングルのようだった庭が、スタートから6年経過した今、ずいぶん奥まで皆様にご覧いただけるようなりました。

ボランティアの活躍は庭園に留まりませんでした。2012年、日本一と呼び声の高い本舗の大看板が修復され、新装なった長岡市の表玄関に飾られ、その雄姿と精緻な彫刻は市民の目を楽しませましたが、5カ月の展示が終わった時、高さ12mの看板は行き場所を失いました。長岡市も保管場所を探してくれましたが、いずれの施設にもこの巨大看板を入れるだけの入り口がありません。そこで本舗の使っていない土蔵に分解して納めることになりましたが、ここには「鍛絵蔵」を修復するとき移された大量の段ボールの山があったのです。この時からボランティアの屋内清掃が始まりました。

本舗の内側も大変荒れていましたが、見るものすべて驚きの連続でした。庭と同じく、いつか皆に見せたいという願いが生じたのは言うまでもありません。2013年、離れ座敷の二階の片付け後、初の一般公開を行い、昨年は一階も公開することができました。更に正面入り口から道具蔵に通ずる通路を片付けて通行を可能にし、大看板の公開も正面から案内することができるようになりました。主屋の一部も手を付け始めています。

本舗の魅力を伝えるには、実際に大勢の方にお越しいただき見ていただくことが一番です。そのために昨年は3回の一般開放を行いました。毎年4月には向かい

けっこう大変な作業です。みんなが一生懸命になれるのは夢に近づくのが実感できるから。振り返ると前回よりさらにステキな空間になっている。

にある吉乃川が「蔵開放」を行なっています。この年これに摂田屋の蔵元が歩調を併せ開放する「摂田屋開放」の実施となったわけです。本舗の来場数は確認できませんが、実施のアンケートでは、保存への熱いメッセージをたくさんいただきました。

私達の最終的な目標は、修復と地域や市民のための活用です。ただそこまでどのくらいの日数がかかるかは分かりません。できることは可能な限り良好な状態を保つこと、これ以上朽ちるのを防ぐことです。

6月に樹木の下枝伐採と灯篭積み直し、離れ座敷の雨漏り防止工事を行いました。永らく手入れが無かったため、木が弱っており岩の上に育った木の根が張ると岩山の倒壊につながりかねません。灯篭も中越地震で倒伏したままになっているものが、数多く残っていました。離れ座敷は雨漏りをしていたり、瓦が落ちて危険な場所が数か所あり、ここを手当てすることが何よりも優先されます。ただ工事にはお金がかかる為、寄付金の集まり具合をみて着工しました。

情報発信も大切なことです。私達の目的を多くの方に伝えるためにも、イベントは重要だと考えています。未だ活用できる状態ではなかったかもしれませんが、離れ座敷と庭園の工事が終了すると、2つのイベントを実施しました。

伝統芸能のイベントでは、狂言のワークショップを長岡で開催する団体から、本舗での開催も可能だという話をいただき、即決定の返事を致しました。素晴らしい床の間と金の襖をバックに一流の狂言師の講和と演技、参加者が一体となったワークショップには参加者も大変満足をされたようです。

もう一つはSecret Garden Concert。市内で活躍するアーティストに集まっていただき、音楽のイベントにチャレンジしました。日中は庭園と離れ座敷の公開、夕方からはライトアップとコンサートというプログラムです。琴、バイオリン、フルートの奏者は思い思いに、本舗のイメージに合わせた曲を奏でました。「機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会」会長からのメッセージの後、暗がりの庭園に200個の豆電球が点灯され、幻想的な風景のなかコンサートは続き、フィナーレはジュピターです。この曲は復興を願う長岡花火フェニックスのテーマ曲でもあり、鍑絵の蔵に描かれた鳳凰（不死鳥）に通ずるもので、思いが込められた熱唱を聞きながら、感動のうちにイベントは終了しました。残念なことは、何人集まるか予想がつかず、混乱を避けるためにご案内は一部にしかできなかったことです。したがってコンサートの様子はYouTubeにアップして皆様に伝わるようにしました。将来本舗はどのような使い方が可能か検証する意味でも、意味のあるイベントでした。

来月、初ライトアップ

有志団体が助っ人募集

摂田屋の機那サフラン酒本舗

長岡市摂田屋地区にある「機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会」は7月5日、機那サフラン酒本舗のライトアップイベントを初めて開く。国登録有形文化財の鍑絵（こてえ）の蔵を投光器で照らすほか、離れ座敷と庭園を開放して無料コンサートを企画する。市民の会は、当日の準備や来場者の誘導などを担うボランティアスタッフを募集している。

ライトアップイベントに向けてライトの設置角度などを確認する市民の会のメンバー＝14日、長岡市摂田屋4

機那サフラン酒本舗は、時半、同5時、コンサートは午後5時半からで市民演奏家がフルートやバイオリンなどを奏でる。ライトアップは午後7時から1時間行う。投光器で鍑絵の蔵と離れ座敷を照らし、約150個の明かりで庭園と庭園内の石灯籠を浮かび上がらせる。

敷地の摂田屋地区を代表する勢力な建物と評されている。市民の会がまちづくりの拠点として保存を目指している。立派な屋敷を多くの人に知ってもらおうと、初めてライトアップイベントを企画した。

離れ座敷の見学は午後3

14日は、市民の会のメンバーや摂田屋のまちづくりに取り組む長岡造形大生のグループ「摂田屋こへ隊」が集まり、投光器の位置を確認するなど手行準備に勤んだ。摂田屋こへ隊長の鈴木優さん(21)は「昔ながらの貴重な建物を地域外の人にも見てほしい」と話す。

建物は老朽化で傷みが激しいため、市民の会は修復に向けた寄付も募っている。また、機那サフラン酒本舗は駐車場がないため、イベント参加には公共交通機関を利用するよう呼び掛けている。JR宮内駅から徒歩10分。

ボランティア、寄付の問い合わせは市民の会、08O（5936）4093、メールアドレスは、setta yaf@rosinogawa.co.jp

豪華な舞台で狂言堪能

機那サフラン酒本舗 初の一般利用

機那サフラン酒本舗で開かれた狂言のワークショップ＝4日、長岡市摂田屋4

長岡市摂田屋地区の機那サフラン酒本舗で4日、市民団体が企画する狂言のワークショップが開かれた。床柱に皮付きの桜を使うなど豪華な造りの離れ座敷を会場に、市民約30人が古典芸能に親しんだ。機那サフラン酒本舗が一般利用されるのは初めて。

ワークショップは市民団体「長岡舞台芸術愛好会」が主催した。京都から招いた狂言師の松本薫さんが講師を務めた。参加者は約1時間、狂言の笑いの方や扇子の使い方を学んだ。

参加した長岡市の高田忠さん(65)は「狂言の話を楽しく聞き、立派な屋敷に驚いた」と話していた。

長岡舞台芸術愛好会は「建物を見に来た人にも、狂言や愛好会のことを知ってもらえた」相乗効果があった」とする。「機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会」は、離れ座敷の利用を随時受け付けている。豆電球印事務局長は「保存に向けて協力してくれる団体を求めている」と話している。

問い合わせは市民の会、0258（35）3000。

長岡・機那サフラン酒本舗

名物の大看板 2年ぶり公開

あす「摂田屋市」

長岡市摂田屋地区の機那サフラン酒本舗で開催される「摂田屋市」の一環、大看板は1911年に立てられ、竜や獅子などの彫刻が施されている。修復を経て2012年には半オーレ長岡に約半年間展示されたが、撤去後は機那サフラン酒本舗の土蔵で保管されていた。摂田屋市では、機那サフラン酒本舗の離れ座敷や庭も公開するこのほか、摂田屋地区内にある五つの醸造所でも酒の試飲や工場見学などを企画している。

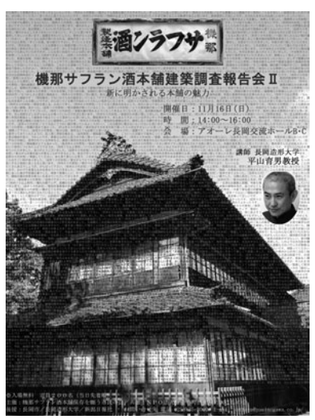
会場には駐車場がないため、町おこしの会は電車やバスの利用を呼び掛けている。問い合わせ同会、0258（35）3000。

10月には当会一番のイベント「おっここ摂田屋市」が開催されます。これは中越地震の復興を祈念して始まったもので、昨年で10回を迎えました。本舗も初回から会場の一つとして多様な試みを行なってきました。2008年鏝絵蔵が修復を終え、2009年から草取りを開始して2012年にはついに庭園の一般開放を達成しました。その後は公開範囲を年々拡大しながら、本舗の姿をお伝えしています。昨年は「鏝絵蔵」「庭園」「離れ座敷」「道具蔵」（大看板を展示）を公開しました。この日、本舗を訪れたのは1,613人、市内外から大勢の人が集まりました。入口付近では地元小学生が作った風鈴の音で来訪者を迎え、ボランティアが整備した通路を通って大看板展示の蔵まで誘導しました。大看板は2年ぶりの公開です。庭園に回った人達は溶岩でできた岩山などの説明を受けた後、離れ座敷へ向かいました。ケヤキ板の廊下、座敷の床柱など今ではとても手に入らない建材の数々にため息をもらしました。出口ではアンケートが行われ、313人から回答をいただき、その内200人から熱いコメントをいただきました。私達の活動への支持や自治体が支援すべきだ等の内容のものも多く、これらの期待や激励にしっかり応えなくてはならないと感じております。

11月には2回目の建築調査報告会が市内中心部のホールでおこなわれ、100名の聴衆を前に新たに判明した本舗の魅力が語られました。昔の新聞記事や広告をもとに、創業者の人となりや事業展開、建造物や作品に込められた意味を紐解いたもので、本舗の魅力はまだまだ未知数です。多角的に調査が進めば、新事実と共にその価値はさらに増幅されることが予感されるものでした。

降雪直前の12月には主屋と道具蔵の雨漏り補修工事を行い、春までは次年度の準備期間です。摂田屋地域の街並み整備事業も少しずつ、目に見える形で進行してきています。9月にはJR東日本の冊子「トランヴェール」で紹介されたこともあり、県外から摂田屋を訪れる方は一段と数を増しています。地元での関心も高まりを見せ、市議団、会議所、ライオンズクラブ、建築士協会などの団体見学が頻繁に行われるようになり、新たなステップに移行できる日が早く来ることを期待しています。

「秘密の庭園音楽会」。機那サフラン酒本舗とこのイベントにピッタリのタイトルでした。



今後の予定

着実に進展しているという手ごたえを感じる一方で、計画には未達のものも多くあります。目標達成には時間がかかり、活動を持続するパワーが必要だと感じています。募金は目標額には大きく届いていません。資金が枯渇すれば思うような活動もできないことを考えれば、集め方や発信の方法について検討し新たな策を講じる必要があります。

アンケートでは保存を支持する熱いメッセージを沢山得られました。その中には行政の積極的なかかわりを求めるご意見も複数ありました。昨年は市議団の見学もありましたが、そろそろ行政を巻き込んだ形で活動を展開してゆく時期であり、連携しながら地域の宝を守る方法を模索します。

この後は屋敷内に残された荒れ放題の場所を少しずつ整備すると共に、通年公開に向けて準備を行なってゆきます。そのために見学者や公開スタッフのための休憩所の整備を行います。主屋入口付近を片付け、間仕切りをして椅子テーブルを置くだけの簡易な形からのスタートです。部屋ができたら可能な限り土日公開を行なってゆくつもりです。保存を進めてゆくには本舗がどのような所なのか、何が貴重なのかを実際に見ていただくことが、一番有効な手段だと思っているからです。

本舗の有効利用も大きな課題です。離れ座敷には使えるトイレや流しがなく、庭を迂回してかなり離れた棟にあるトイレを使うしかありませんでした。そこで来期は離れ座敷にトイレと流しを作り、活用できる環境を整備します。

私達の活動にはボランティアの力が欠かせません。このパワーと地域や大学、市民ネットワークを拡大しながら活動を展開し、貴重な文化財の保存と地域活性化に努めてゆきたいと思います。